

3 漁業・漁村の活性化を支える取組

(1) 担い手の育成・確保

《取組のポイント》

1 就業相談から就業・定着までの段階に応じた対策

☞就業希望者の窓口となる就業相談から漁業体験、漁業技術研修を経て就業・定着に至る段階に応じた支援

2 新たな就業モデルづくり

☞都市部からの新規漁業就業希望者を漁協や漁業者グループ、市町が連携して受け入れ、漁協や漁業等の仕事に従事しながら、地域漁業を知り、漁村での生活に馴染み、将来の漁業就業を目指すモデルづくりを支援。

【背景】

・漁業就業者数は減少傾向・高齢化

☞H20年 5,916人から H30年 3,678人（38%減少）・65歳以上の割合 45%

・新規漁業就業者も減少傾向

☞H25～H29は平均 54名/年から H30～R4は 32名

☞新規漁業就業者に占める漁家子弟の割合は約 2割・非漁家出身者約 8割

〈取組の内容〉

《これまでの取組》

1 相談から就業・定着までの段階に応じた取組

(1) 漁業のPR・就業相談

- ・漁業の操業スケジュールや漁業収入のほか、就業までの流れ・支援をまとめた「ちばの海で始める漁業就業」のパンフレットを作成・配布
- ・県内での就業相談会の開催（千葉市、館山市、銚子市）
- ・全国漁業就業フェアに参加（県漁連・漁業者と連携）

(2) 漁業体験

- ・小・中学生を対象とした水産教室・夏休みの高校生インターンシップの実施
- ・社会人を対象とした短期漁業技術研修（5日間）の実施

(3) 漁業技術研修

- ・漁業技術の習得と適性判断を行う中期漁業技術研修（2～3ヶ月間）
- ・就業、着業を目指す長期漁業技術研修（1年～最長3年：国事業を活用）

(4) 就業・定着

- ・新規漁業就業者が地域の漁業士など先輩漁業者から学ぶ研修会の開催
- ・国のリース事業を活用した独立に必要な漁船等の取得支援（県漁連と連携）

2 新たな就業モデルづくり

(1) 海士モデル（R4～）

漁協の市場やアワビ輪採漁場の保全などの業務に従事しながら、海士漁業者に必要な潜水士等の資格を取得するなどし、海士漁業者を目指すモデルづくり。

(2) ノリ養殖業モデル（R5～）

ノリ養殖漁業者グループの下でノリの養殖から加工、販売までの仕事に従事しながら技術を習得するなどし、ノリ養殖業への就業や着業を目指すモデルづくり。

《今後の取組》

(1) 都市部など潜在的な漁業就業者の掘り起こしの強化

(2) 新たな就業モデルづくりの促進とモデルの横展開による取組の拡大

(3) 新規漁業就業者の確保・育成対策の強化を図るため、今後の対策の方向性等を検討する学識経験者や漁業者代表者による検討会を設置

☞10月19日に第1回検討会議を開催予定

〈事業イメージ〉

1 千葉県における新規漁業就業者の確保・育成対策の事業体系

新規漁業就業希望者の相談から就業・定着までの段階に応じた支援を実施

漁業のPR・就業相談

☞千葉の漁業を知る

- ・パンフレット作成・配布
- ・就業相談会の開催
- など

漁業体験

☞ギャップを埋める

- ・水産教室の開催
- ・漁業体験の実施
- など

漁業技術研修

☞適性を知る
☞実践技術を学ぶ

- ・漁業技術を実操作で学ぶ中・長期の漁業技術研修

就業・定着

☞将来を見据える

- ・フォローアップ研修
- ・漁業独立支援
- ほか

2 新たな就業モデルづくり

漁協や漁業者グループが市町と連携して行う新たな就業モデルづくりを支援

[モデルづくりの流れイメージ]

○漁協や漁業者グループ、市町などが連携して受入計画を作成（県支援）

↓計画に沿って

○市町は新規漁業就業希望者を募集・採用（国の地域おこし協力隊員制度を活用）

↓漁協に派遣

○漁協・漁業者グループの指導の下で漁協や漁業の仕事等に従事

○漁業に必要な資格取得に向けた研修（県支援）

↓1年～最長3年後

○漁業に就業・着業